

読書感想文全国コンクール 県内2人喜びの声

第67回青少年読書感想文全国コンクール(全国学校図書館協議会・毎日新聞社主催、内閣府・文部科学省後援、サントリーホールディングス株式会社協賛)の入賞者が決まった。県内からは内閣総理大臣賞につくば市立谷田部東中8年の広瀬健伸さんが輝いた。毎日新聞社賞を、鉾田一高1年の佐伯陸斗さんが受賞した。2人に喜びの声を聞いた。

内閣総理大臣賞

「好き」貫く人生を

つくば市立谷田部東中8年 広瀬健伸さん



内閣総理大臣賞を受賞した広瀬健伸さん—つくば市立谷田部東中で

読んだのは伝記「牧」の父(清水洋美・文、社)。植物図鑑で知られる野富太郎 日本植物学 里見和彦・絵、汐文 れる研究者、牧野富太

郎(1862—1957)の生涯と自らの夢を照らし合わせ、「好き」を貫く人生について10日ばかりで書き上げた。

感想文は「僕にも夢中になっているものがある」で始まる。ひたすら植物を愛した富太郎に対し、広瀬さんが夢中なのは野鳥だ。授業が終わると誰よりも早く下校し、双眼鏡とカメラを手にして学校近くの公園へ。将来は「野鳥をほとんど研究したい」と夢見ている。富太郎は「日本の植物のすべてを明らかにする」と志を立て、自ら印刷技術を習得して植物図解の本を出版するなど、仕事を進めていく。好きなことにのめり込み、有言実行していく様子に、共感と

感動を覚えた。

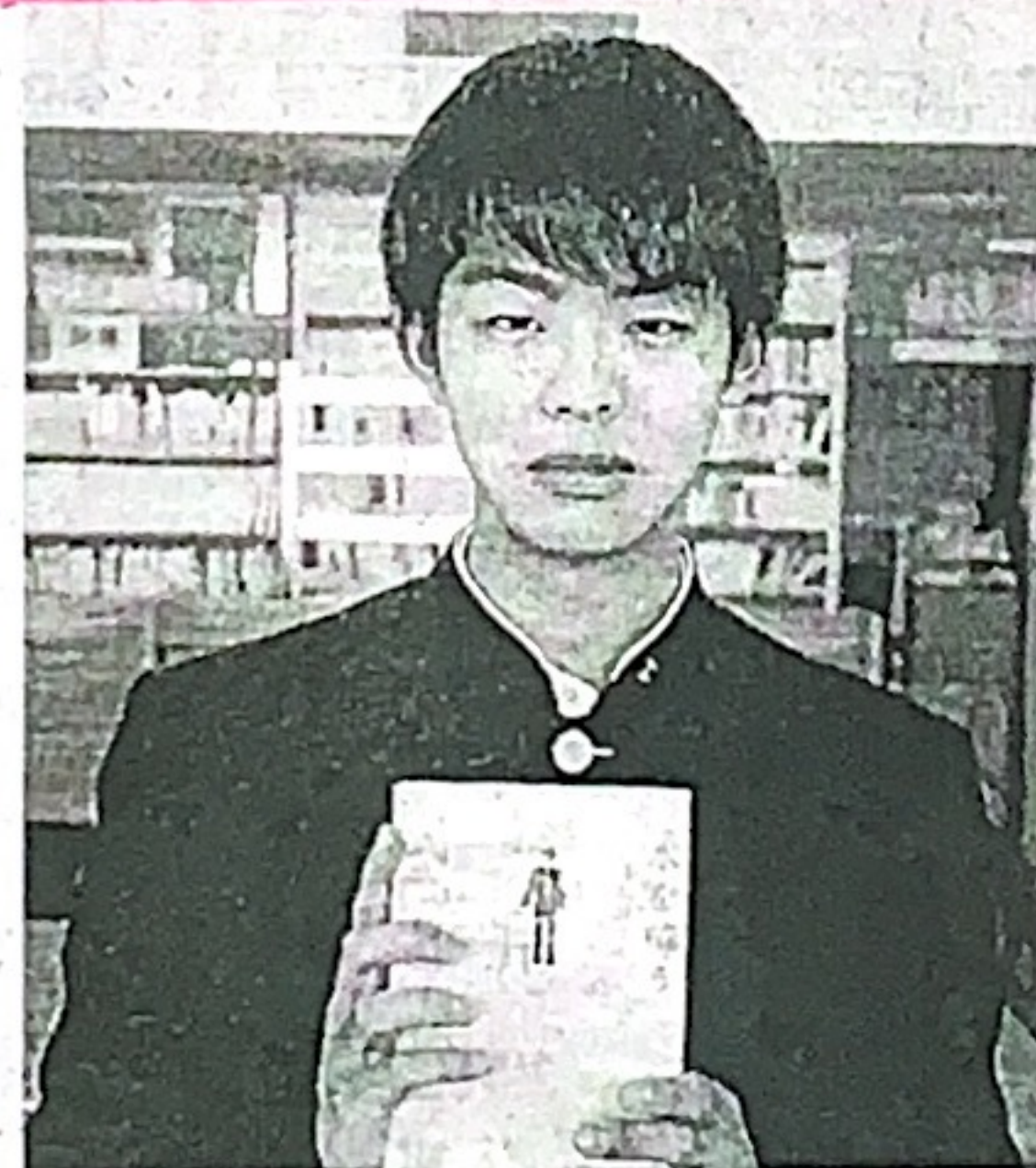
一方で、富太郎の研究のため借金のかさみ、家族まで貧乏暮らしになった。「情熱といえは響きはいい。でも角度を変えれば、自分本位な態度になってしまふ」という複雑さに気づかされた。

それでも読後に残ったのは、「植物と密着した人生への好感や尊敬」だった。富太郎は、人々が草木を好きにな

り、植物を知ること世の中が平和に豊かになると考えた。採集会の指導にも尽力するなど、富太郎の「好き」は、周囲にも作用した。「『好き』は人生に活力をくれる。その活力を周りに伝えることで、他の人の役にも立つ」。誰かのために自分を押しつづる人生より、「好き」を貫いて自分も周りも楽しくする生き方を選びたいと

思い至った。部活動もしないで鳥を見に行ってしまう自分を「このままでもいいのか」と迷うこともあった。「これでいいんだ」と思えるようになったのは、この本のおかげだ。1世紀半も前に生まれた博士のことを手本のように感じながら、鳥の研究に没頭する未来の自分を思い描いている。

【富田哲】



毎日新聞社賞を受賞した佐伯陸斗さん—県立鉾田一高で

毎日新聞社賞

「本当の多様性」自問

鉾田一高1年 佐伯陸斗さん

「水を縫う」(寺地はるな著、集英社)を選んだ理由は「奇抜なタイトルと、表紙の爽やかな青色につられて」だった。

主人公は、刺しゅうが好きな男子高校生。その趣味のために周囲

から軽蔑され、苦しみ中で、真に理解してくれる友に出会う。

元々、マイノリティとされる人々の生き方を認めているつもりでいた。しかし、同書を読み進めるうちに「多様性に対する認識

の浅さ」を実感させられたという。かつての認識について、上から目線で分かったつもりになっていたいなかった。自問を繰り返しながら、「普通とは、マジョリティーが一方的に決め付けただけ」と気づいた。

読後、友人からバイセクシュアルの傾向があると打ち明けられた。その言葉を自然に受け入れられたのは、この本を読んだからだと思っている。相手の個性を尊重し、「同時に、自分の悩みも聴いてほしい」と思う。互いを理解し合うことが、本当の多様性の実現に近づく一歩だと信じている。

【根本太一】

茨城

IBARAKI

mito@mainichi.co.jp

水戸支局

〒310-0011

水戸市三の丸1の5の18

029・221・3161 FAX029・232・0438

つくば支局

〒305-0005

つくば市天久保1の16の10

029・851・0166

日立通信部 0294・22・5555

土浦通信部 029・821・0214

鹿島通信部 0299・82・1820

古河通信部 0280・32・0476

広告

茨城毎日広告社

本社(水戸) 029・225・2001

土浦営業所 029・823・2001

購読

☎0120・468・012

インターネット

毎日新聞ニュース

<http://mainichi.jp/>

茨城のニュース

<http://mainichi.jp/ibaraki/>